

領域2 運営会議議事録案

日時：平成18年9月24日 11:15-12:30

場所：千葉大学 西千葉キャンパス QB会場

1. 領域2の最近の活動報告

- 物理学会理事会の方針に沿う形で、領域間の連携を推進している。
 - * 物理学会の活性化の一環として、2007年9月の年会（北海道大学）では、全領域が一同に集まり、各分野の動向や全体像をレビューするなどの企画を理事会で検討中（高部理事から補足あり、後述）。領域2においても、2007年3月の分科会（鹿児島大学）で、チュートリアル講演を企画したい。
- 「日本地球惑星科学連合2006年大会」（2006年5/14-15、幹事学会：地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)；2005年度-物理学会が幹事学会）にて、「物理・天文・地球惑星合同プラズマ科学シンポジウム」を開催
 - * 次回は天文学会がホスト、2007年9/26-28（岐阜大）に実施
 - * 2007年3月までに大枠を決定、6月に講演募集
 - * 本シンポジウムに物理学会からも世話人を出すことで承認。
 - * 当初2005-2007年の3年計画で開始し、2007年が3年目の節目に当たる
 - 今後の方針について議論する必要がある（何らかの形で継続を希望する声が多い）。窓口を整理して（WEB等で）会員の意見を頂く方向で考える。

2. 第7回領域2アドバイザーボード議事報告

岸本代表から第7回領域2アドバイザーボードの議事について報告があり、それに関して意見交換がなされた。主要な議論は以下の通り。

(1) 運営会議を講演時間内に実施することについて

- 現行の規則ではプログラムに書き込めないが、今後も領域委員会などで提案し続ける必要がある（次期代表に引き継ぐ）

(2) 運営会議の位置付けについて

- 現在、領域2会員の登録や運営会議での定則数などに関する規定はないとの報告、以下の議論がなされた。

吉田（善）：メンバー、定足数、可決等に関して特に規則は作成していない。自由意志での会員参加を前提としており、合意形成については厳格な規則のない方がスムーズであろうと考えた。今後、シンポジウムの方針や、領域2としての若手奨励賞をどう考えるか等、重要事項は事前にアナウンスして、当日集まった会員で議論するのが適切と考える。」

兒玉：意思決定機関がアドバイザリーボードになり、運営会議が確認の場となってしま
っては困る。

吉田（善）：アドバイザリーボードで道筋を議論し、それを運営会議に諮って承認を得
るようにしている。運営会議では否決することがありうるので問題は少なからう。

岸本：アドバイザリーボードには、幅広い分野の方々の意見を反映させるため天文学会
や地球電磁気・地球惑星圏学会を中心に活動される方にも参加していただいている。具
体的な方針案の作成や検討については、領域代表・副代表、世話人などを中心に行う必
要がある。今後、領域2の会員登録を含めた運営のあり方については継続審議としたい。

(3) 物理学会の活性化、分科会の改革について（高部理事より）

＊ 物性分科会について、3年をめどに体制変更する予定（8月の理事会で承認済）

- 1-2年かけて横断型のグループ形成、3-5年で他学会との連携
- 6-7年で国際的な連携

＊ チュートリアル講演の導入について

今大会でアンケートをとり、賛成多数ならば次年度の年会（9/21-24, 北大）からチュ
ートリアル講演を導入する予定。

- 領域代表・副代表、世話人などを中心に「幹事会」を作り、チュートリアル講演
に関する提案・議論をあらかじめ幹事会で練り、アドバイザリーボードでの議論
も反映させて案を作成、それを運営会議で図る提案が岸本代表よりなされた。

（運営委として承認）

(4) 招待講演／シンポ、企画講演などの提案方法について

＊ 提案方法は2通りある旨説明

- 半年前の運営会議で提案、またはWEB提案の2通り
WEB提案終了後、全提案を公開し、一般意見を受付、領域としての推薦案を決定
する
- 運営会議提案は望ましいが、その後、同様に公開し、内容中心に議論を行った上
で採択する

（以上、運営委として了承）

(5) 電気学会、応物学会との連携強化に関する提案

- プラズマをテーマとする学会として、天文、地球電磁気のみならず、上記2学会
とも連携を強化したい。幹事会で役割分担を決め、今後、組織化することを提案。

（運営委として了承）

(6) ICPP08 福岡開催 (佐藤 (浩) 先生より)

- 国際会議との連携、招待講演の推薦等：開催経緯、企画内容の説明
- 幹事会で、担当をおいて対応
(運営委として了承)

(7) 代表／副代表、世話人 (幹事会)、アドバイザーボードの役割分担について、従来曖昧であった組織や役割分担を明確にする方向で検討。

- 幹事会 (領域代表 1 名、副代表 1 名、世話人 (8 名)、前代表 1 名：合計 11 名) を構成する。
- 今後、領域の独自性が求められる中で、様々な提案や企画に関して実質的議論を幹事会で集中的に行い内容を吟味した後、アドバイザーボードの意見を反映させた後、運営会議に提案することとしたい。これにより、様々な懸案事項に組織的に臨機応変に対応する
- 担当、役割分担の明確化
 - ・ 広報、会計、総務、(企画運営)、等
 - ・ 大会担当、賞、編集、他学会との連携、等(運営委として了承)

(8-1) 物理学会若手奨励賞統一基準について

- 前回 (3 月) の運営委員会での議論
理事会指針 (2006 / 3 / 3) としては、1) 論文賞、2) 講演賞、3) 論文 / 講演双方があり得るが、領域 2 では、「論文賞」として進める。対象論文は JPSJ、PROGRESS、物理学会誌 (春学会) に限るべきとした。
- その後、大きく状況が変化 (以下、岸本代表からの経緯説明)
- 領域 5 の末元代表を中心に物性領域の統一基準案が (1、5、7、8、10) 等の領域の合意を得て出され、高部理事からも「領域で話し合い、統一基準を策定することは賞の趣旨に合致する。領域 2 も参加を検討すべきでは」との提言あり。領域 2 においてアドバイザーボードで議論を行い、参加の方向で検討することとした。
- 5 / 31 会長に統一基準策定の要望書 (1、2、3、5、6、7、10、12、13 の各領域) を提出 (領域 2 の議論とも基本的には合致)
- 6 / 15 理事会から回答：統一案は喜ばしい、ただし、強制はするものではない。個別にも提案を受け付けて審議する。賞に領域名を入れることとする。
- 授賞規定 (資料配布)：論文賞は既にあるので、今回議論している若手賞は物理学会誌 (JPSJ) に限らず、他の学術雑誌も対象にする。ただし、学会の当該領域で発表されていることを条件として付すとともに、研究業績全体も考慮する。3 の審査

基準は十分斟酌してほしい。

以上の報告の後、以下のような議論がなされた。

畦地： 前回も主張したが、論文誌として JPSJ に限る必要はないと考えている。なぜなら、当該ジャーナルは研究トレンドを反映していないのだから、今回の決定は望ましいことである。

岸本： 領域間連携とも連動し、他分野と協調し運営したい。

議論の結果、「領域2若手賞」を今回提案の通り進めることを確認した。

(8-2) 日本物理学会若手奨励賞規定 領域2細則に関して、細則案が資料として配布され、議論がなされた。

- ▶ 審査委員は委員長+副委員長+4名の審査委員の合計6名
- ▶ 4名の審査委員は委員長・副委員長・領域代表・領域副代表とが協議して決定。再任なし。
- ▶ 応募方法も統一基準に沿ったものとする。
(以上の基本方針については了承された。)

▶ 審査手順

「論文を中心に」順位をつける。本日以降 WEB で公開するので、意見を寄せてほしい旨、岸本代表から依頼があった。

以上の報告の後、以下のような議論がなされた。

岡村： 応募があってから審査委員会を組織するのか、それとも審査委員会が先に設置され、それが公募をかけるということか？」

岸本： 基本的に後者。事情により審査員が自己申告により審査に加わらないこととする。必要ならば査読者をさらに他に依頼して、審査を行う。

門： 第一著者でなくても選出しするということか？

吉田（善）： 主要な寄与があれば選ぶべき。第1著者である必要はないはず

岸本： 第1著者であることを条件とはしない。複数編で評価できるなら、評価しようということ。

議論の結果、提案の細則について了承された。

(9) キーワードの見直しについて

岸本代表から、変更依頼に関する説明があった。

- 世話人より、第2 / 3 KW が煩雑、編成時に支障一簡素化を希望
- レーザー核融合関連： 慣性核融合分野が分かれて、少ない聴衆が更に分散する
- 「ビーム物理」領域ができたため、参加者が分散してしまう

現状の分析からも、第2キーワードとして「その他」（9件）を選んだのは殆どレーザー核融合、また「新領域」も6 - 7件がレーザー物質相互作用研究。一方、プラズマ宇宙物理が今回少なく、この観点からも問題あり。第2 - 3キーワードについてはある程度、整理する方向で検討したい。その他、「高エネルギー密度プラズマ物性（「物性」はとってほしいという意見あり）」を「プラズマ原子物理と輻射輸送」にかえて設けた

以下のような意見交換がなされた。

岡村：キーワードは何に使うのか

岸本： 主にプログラムの整理

金子： 現状、プログラム編成において、まず第1キーワードで分類、その後、6人の世話人に振り分ける。（それ以降は各世話人のやり方に依存する。）次に第2キーワードで分類、その後、第3キーワードの研究対象としてそれでまとめる。担当者や分野によっては第3キーワードが先ということもあり得る。

岡村：世話人の個性に依存するようでは議論にならないのではないか

岸本：世話人の判断が基本であるが、最後に領域代表・副代表・世話人全員により十分に確認しており、問題ないものと考えている

吉田（善）：物理学会は、種々の分野の交流の場を設けようという合意のもとに、このようなキーワード構成となった。

笹尾：あまり固く決めずに、世話人の裁量があってよい。

岸本：安易にプログラム編成をやっている訳ではない。裁量といっても、もちろん熟慮の上で進めている。

高部：経緯を理解して、裁量してくれればよい。

畦地：キーワードが樹枝構造なら、キーワードの階層としての第1-第3キーワードでよいが、座標軸としての第2 - 第3キーワードならば問題。カテゴリーの議論が重要

兒玉：議論が乏しいのではないか。特に高エネルギー密度に関して。

岸本：時間不足であった。半年待っていただきたい。来年の春は無理。今回の対応は応急措置であることを理解してほしい。ただし、キーワードに関する様々な議論はきわめて重要であるので検討を行うべく、「検討作業会」を設置して議論したい。

最後の岸本代表の提言について会場から異議なく、了承された。

3. シンポジウム提案（畦地（阪大）「レーザー核融合における燃焼診断法の開発」2007年3月ー資料に基づき説明

岸本： 再度 WEB で提案していただきます

畦地： 拝承

4. 物理学会の活性化、分科会の改革について（高部理事、活性化 WG 委員長）

- ▶ 短期計画：2007 秋の年会（北大）から「レビューセッション」を平行で走らせる。
- ▶ 種々の分野の交流が盛んになることを期待して、各分野を番号で呼び「領域 X」にしたのに、現状では望ましくない結果となっている。
- ▶ 固体物理／物性系は再定義の予定。固体以外の領域では、3－5年で、独立採算、独自開催を打ち出そうとしている。
- ▶ 領域 2 も、プラズマ関連研究の研究者が普く集まるような、年会を開催することを検討すべきである。
- ▶ 7－8年かけて分科会の国際化も視野に入れている。アジア／太平洋物理学会連合の Division Plasma Physics を立ち上げようとしている。秋季大会では講演は海外と合同とするなど、再編／統合を期待している。
- ▶ そのためには、平成 19 年 3 月春季大会での企画提案が必要で、チュートリアル講演等の検討もせねばならない。

6. 新代表からの挨拶（小野（靖）新代表より）領域 2 を取り巻く状況は厳しく、さらに、領域として、物理学会本体から独立した活動が求められている。皆様の助力とともに、活性化に貢献したい。

審議終了後、吉田（善）氏よりプラズマ領域活性化の一環として特定領域提案などについての議論がなされた。

以上